

NGO連携無償資金協力事業

農業によるミャンマー少数民族の  
所得創出支援プロジェクト(第2期)

事業成果報告

特定非営利活動法人 グレーターメコンセンター

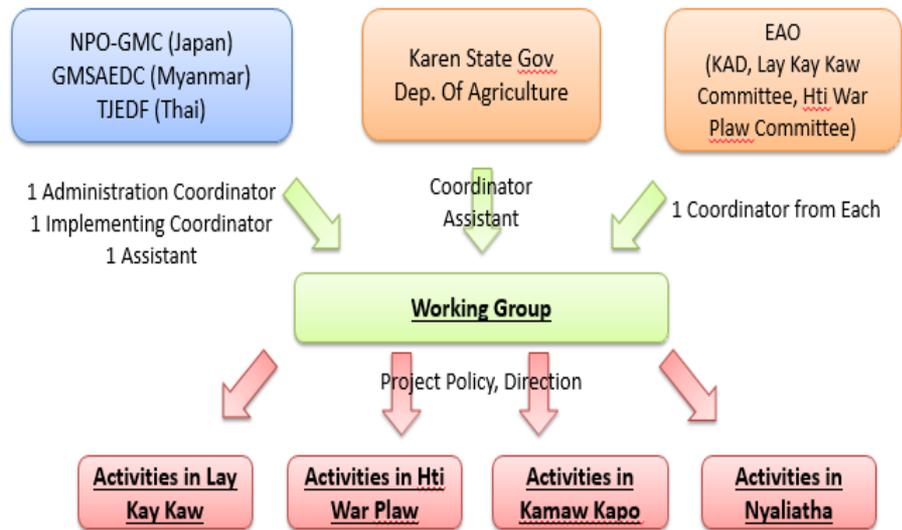


# 事業の目標とカウンターパート

## 全体目標

- 2017年11月24日、第2フェーズ第2期を開始。本農業支援事業は、**日本財団の難民帰還民支援プログラムの一環**で、農業を通じた地域復興支援のモデル事業である
- カレン州の少数民族地域で有機農業技術移転により環境保全型農業基盤育成と地域住民への職業訓練を行い、自立的・持続的な生活向上のメカニズム定着と地域住民の所得創出機会の多様化を実現し生活向上を目指す

## カウンターパート



- NPO-GMC、カレン州政府、EAOからの人員で構成されたWorking Groupを設置し、協議を行いながら各地域での活動を実施している

# 各活動の関連性

## ● Base (農業改良普及所での活動)

### 1. 農業改良普及所の運営安定化

スタッフの能力強化と商品作物開発により、農業改良普及所、モデル農場を持続的に運営させる

### 3. 製品開発と市場開拓

地域の所得向上機会創出のモデル活動を実施する

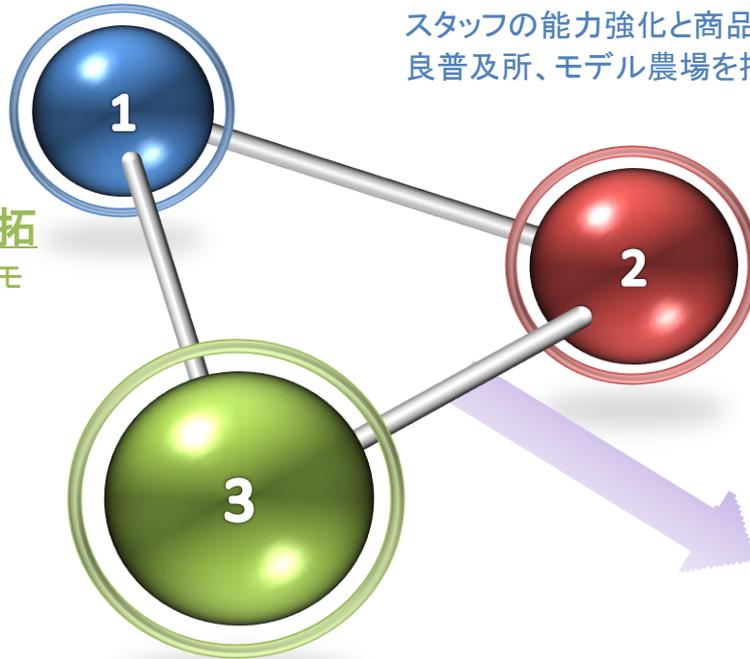
### 2. 農業開発人材の育成

カレン州内の人材開発及び育成を行う。育成された人材派遣を遠隔地に派遣し技術知識を普及する。

## ● Satellite (コミュニティでの活動)

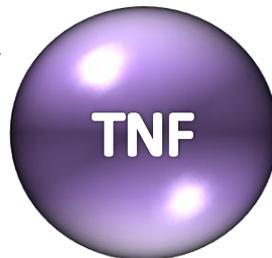
### 4. 遠隔地での農業開発活動

人材育成、商品市場開発の成果を、遠隔地の少数民族居住地域へ広げ、共有する。  
(マーケティングや協力ネットワークの構築により、コミュニティの発展を後押しする)



### ❖ 日本財団による帰還民支援プログラムとの相乗効果

難民帰還民に対して農業分野での基盤整備・職業訓練の受益機会を提供し、日本財団の難民帰還村の建設事業を補完する



## ● Base (農業改良普及所での活動)

### 1. 農業改良普及所の運営安定化

スタッフの能力強化と商品作物開発により、農業改良普及所、モデル農場を持続的に運営させる

有機農作物・農業加工品の生産、畜産活動

#### 農業製品

- レーケーコー  
: ボカシ(有機肥料)、コンニャク芋、養鶏、菌床栽培、マンゴー(セインタロン種)
- ティーワープラオ  
: コンニャク芋、畜産(豚、山羊など)、養鶏、養魚、ココナッツ、米(シントゥーカ種)
- ニャリアタ・メーサリット  
: ボカシ(有機肥料)、ごま油、養魚、養鶏

#### 問題点、及び課題

- 2018年7~8月にかけて、ミャンマー東部で記録的な洪水被害が発生し、本事業地のうちティーワープラオ、及びニャリアタで大きな被害が発生した。こうした想定外の災害時には、少数民族のみでの自立した運営ができず、当団体職員・農業専門家が主導しながら災害復旧を進めた。緊急時の対応等、日常業務以外での少数民族の能力開発が必要である
- 日本人農業専門家による土壌検査ワークショップを実施。結果、肥沃でない土壌であることが判明し、地域特性に合った農産物の栽培を進めている



#### 本事業の成果

州政府とEAOの協同

- 州政府職員アレンジのもと、ミャンマー産マンゴー(セインタロン種)の栽培を開始
- 連邦農業大臣が推奨する良質米(シントゥーカ種)の栽培を少数民族地域で開始。ボカシ肥料を使った試験栽培を行うことで、環境配慮型農業の普及と技術定着を目指した

※ボカシ肥料を使用した農地では、従来の肥料で栽培した農地の約1.3倍の収穫量となった

#### 事業終了後に向けて(可能であれば)

- 生産された農業製品にて、施設維持費をカバー  
→ マーケット開拓に向けて努力中(農業製品のため、生産に時間を要する)
- ※事前合意時、事業終了後の資金援助はしないことで、合意済

# ● Base (農業改良普及所での活動)

## 2. 農業開発人材の育成

カレン州内の人材開発及び育成を行う。育成された人材派遣を遠隔地に派遣し技術知識を普及する。

### 農業技術普及員の育成

#### 研修実施

- 6ヶ月農業研修府実施
  - 少数民族地域内での、高校卒業後の進路の一つとなっている
- 連邦政府農業大臣の要望から、稲作農業研修を実施
  - 4月、連邦政府農業省が事業地視察後(州首相によるモニタリング団派遣)、州政府内で農業事業の関心度が増し、研修開催に繋がった。研修後も、フォローアップとして、幣団体より3.2tの種もみを農民に寄贈した
- 日系企業による短期研修の実施
  - 乾燥こんにやく加工生産に先駆け、日系企業の監修のもと、加工研修を行った。少数民族支配地域ではコンニャク芋(生)としての販路しか持たず、新たな販路を興すきっかけとなった



#### 本事業の成果

#### 州政府とEAOの協同

- 少数民族地域で実施する短期研修に連邦政府農業畜産灌漑省の講師を招聘したり、参加者として州政府職員を招待したりすることで、草の根での連携関係が生まれた

#### その他

- 少数民族地域で幣団体が、カレン州政府農業局や少数民族と協力して、農業支援活動を実施
  - 11月の州主催式典にてカレン州農業大臣から、2018年度カレン州内で活動した団体で、カレン州の発展に寄与した団体として表彰される(10団体)
  - ※2018年11月7日に開催された、カレン州政府農業省が主催したカレン国民記念式典にて表彰

指標	内容	判定	
指標2-1	長期研修参加者の8割が合格(最終試験で60%以上の正答率)	修了生数28名 (目標の116%) 最終試験正答率 : 88.8%	達成
指標2-1.2	カレン州少数民族支配地域全域に長期研修修了生を配置	カレン州内少数民族地域6地域にて卒業生を輩出	達成
指標2-2	短期農業技術研修参加者の7割が研修成果を生活改善に活用	生活改善の実感 82.2%(目標の117%)	達成

## ● Base (農業改良普及所での活動)

### 3. 製品開発と市場開拓

地域の所得向上機会創出のモデル活動を実施する

#### 所得創出活動

#### 農業製品

- ボカシ(有機肥料): シャン州日系NGO等への販売  
→7月より、生産者登録及び、カレン州農業畜産灌漑省からの行政販売許可を取得する手続きを進めている
- 乾燥こんにやく: 在ヤンゴン日系企業との官民連携  
→買取契約を行うことができ、新たな農産物を興すきっかけを提供
- 畜産活動  
→ミャンマー国内で市場確保。更に販路拡大を計る
- ソルガム: 日系農業ベンチャー企業の監修のもと、試験栽培を実施。  
→新たな換金作物としての展開を模索
- こんにやく麺: 地域市場を販路とした製品開発  
→ODA資金で開設したマーケティングセンターでも販売。品質向上を模索中

#### その他

- タイ側での移民労働の提案: LKKにてパイロット実施  
→現在基礎調査実施中  
※ミャンマーIDホルダー、タイ語可の場合、労働許可証取得の合法移民労働の提案(最低労働賃金保障)



#### 本事業の成果

- **州政府と少数民族のロゴを併用**する製品化の合意  
→農業局長合意  
※カレン州での商標登録の手続き中。カレン州政府と少数民族団体による共同製品化は初のケース

#### PR関連

- 新聞メディアでの報道: 計26回(カレン州地方新聞、及び農業機関新聞)
- テレビ番組: 特別ドキュメンタリー番組の製作  
※ミャンマー国営ファーマーチャンネル製作、2019年明け放映
- ニュース番組: 計4回(ミャンマー国営MRTVのニュース番組)

#### 州政府とEAOの協同

## ● Satellite (コミュニティーでの活動)

### 4. 遠隔地での農業開発活動

人材育成、商品市場開発の成果を、遠隔地の少数民族居住地域へ広げ、共有する。

(マーケティングや協力ネットワークの構築により、コミュニティーの発展を後押しする)



#### 僻地開発活動

#### 長期農業研修の卒業生と連携し、環境配慮型農業を普及

- Mutraw : こんにゃく芋の加工技術を普及させ、自家製の加工こんにゃくを地域の市場に流通
- TaungOo : 情報交換や技術交流のネットワークを構築
- Doo Tha Htoo : フィッシュペースト等、農業以外での収入源を構築
- Hpa-An : 生産者をグループ化し、共同で作業をさせることで、生産効率を向上
- Doo Pla Yar : 共同での農園設立や、情報交換を主とするネットワークが構築
- Kler Lwee Htoo : 難民帰還民の村であり、直接農業指導を行うことで、今後の定住に向けての支援

#### 問題点、及び課題

- 活動実施地域は少数民族地域の特に山間部に位置するため、農業普及員との連絡が困難な地域もあった。本団体の農業専門家や専門家補佐、カウンターパート職員が定期的に各地を巡回訪問しているものの、アクセスのいい場所と悪い場所でフォローアップの程度に差が出てしまった。

#### 州政府とEAOの協同

#### 本事業の成果

- 州政府実施の農業研修に少数民族参加
  - ※ 計9回実施
- 少数民族主催の農業研修に州政府職員が参加
- カレン州政府農業局によるKNU支配地での農業研修
  - 全土停戦合意後も当該の少数民族支配地域では州政府による行政サービスが提供されたことがなく、**本事業での農業研修が初の事例**となった。なお実施に際しては、州政府とEAO間で調整が行われ、最終的に州政府農業局長と武装勢力地区代表との合意により実現した。農業を通しての国民和解の大きな成果となった。
  - ※ 計8回実施

#### その他

- ミャンマー連邦政府農業大臣が、幣団体と州政府とで共同実施した農業研修を視察し、その成果を認め同大臣による農業機械(トラクター3機)の贈呈が行われた
- ※ 連邦政府によるカレン州の村への直接的物資の贈呈は初ケース
- 州政府発行の第63回記念機関誌「Hpa-si Land and GMSAEDC (Hpa-siはカレン州の民族楽器)」に、幣事業の寄稿文が掲載

## ● Satellite (コミュニティーでの活動)

### 4. 遠隔地での農業開発活動

人材育成、商品市場開発の成果を、遠隔地の少数民族居住地域へ広げ、共有する。  
(マーケティングや協力ネットワークの構築により、コミュニティーの発展を後押しする)



#### ネットワーク構築

#### マーケティングセンターの開設

- 地区住民の生産した農作物の集積施設、及び販売所を兼ねる
- 農作物の加工機器の提供(住民が自身で加工ができる環境を目指す)
- 情報交換施設・研修提供施設として、周辺地域一帯の住民が自身の農作物をマーケットに繋げる基盤整備
- 加工により付加価値を付けたり、マーケティングの知識取得や市場情報の共有といった収入向上のための機会を得る拠点の提供
- 作付実験や商品化等、農業改良普及所で生まれた成果をこのマーケティングセンターを通して地域に展開することで、地域への成果の還元繋げる



#### 展望・将来性

- 農業生産物供給基盤の整備
- ビジネス機会の提供
  - マーケティングセンター内での販売(場所の提供)
  - ビジネスワークショップ(マッチング機会の提供)

#### 州政府・EAOとの和平融和活動

#### 協力関係の演出

- 農業局の開発した情報アプリを少数民族地域で普及
- 政府関係者の事業地視察を通じて、EAOだけでは発展できない部分を補填していく
  - 農業局局長より、菌床栽培の低技術の指摘を受け、幣団体に研修を調整予定
- メディアを使った和平への取組を対外的に広報

#### 事業終了後に向けて(可能であれば)

- 州政府とEAOの協同の機会を増やし、組織間の連携を増やすことで、活動を継続する関係性の構築
  - 草の根レベルでの協力関係から組織レベルに

# 事業実施地

